

令和4年度

県立高等学校入学者選抜学力検査結果の概要

和歌山県教育庁学校教育局県立学校教育課

一 般 選 抜

〔 国 語 〕

1 出題方針

- (1) 出題の範囲は、中学校学習指導要領に示されている内容全般にわたるように配慮した。
- (2) 大問 一 では、漢字について、基本的な書く力、読む力が身についているかをみるとともに、敬語、文法、古文、書写の基礎的・基本的なことがらについて、正しく理解できているかをみるようにした。また、古文とその解説文を読み、伝えようとしている内容が理解できているかをみるようにした。
- (3) 大問 二 では、生物と水の関係について書かれた文章を読み、内容や筆者の考えが理解できているか、文章と他の資料を結び付けて考えられるかをみるとともに、読み取った内容を適切に表現する力をみるようにした。
- (4) 大問 三 では、俳句甲子園に挑む高校生の様子を描いた小説を読み、内容や登場人物の心情が的確に理解できているかをみるとともに、読み取った内容を適切に表現する力をみるようにした。
- (5) 大問 四 では、二枚のポスターを、活動の目的を踏まえて比較・分析し、どちらのポスターを選ぶかについて、自分の考えをまとめ、分かりやすく表現する力をみるようにした。

2 学力検査の結果について

- (1) 本年度の平均点は、54.0点（満点100点）であった。
- (2) 大問 一 では、基本的な常用漢字の読み書きや、場面に応じた言葉の使い方については概ねできているが、古文の仮名遣いや内容の理解に課題が見られた。
- (3) 大問 二 では、文章の内容の基本的な読み取りは概ねできているが、文章の内容を端的にあらわしている語句の理解に課題が見られた。
- (4) 大問 三 では、文章全体を通した内容の理解は概ねできているが、描写をもとに登場人物の心情等を理解して説明することには課題が見られた。
- (5) 大問 四 では、ポスターの特徴をとらえて自分の意見につなげようとする態度は見られたが、2枚のポスターを比較・分析したり、自分が選んだポスターに合った意見をまとめ説明したりする力に不十分さが見られた。
- (6) 国語科の指導にあたっては、どのような言語活動を通して、どのような資質・能力の育成を目指すかを明確にし、思考・判断し表現することで知識や技能を身に付けさせる授業を構想することが大切である。

3 各問題別結果

調査人数	542人
------	------

問 題			得点者の割合 (%)																
			15点	14点	13点	12点	11点	10点	9点	8点	7点	6点	5点	4点	3点	2点	1点	0点	
一	〔問1〕	①	漢字の読み書き													78.2		21.8	
		②														87.6		12.4	
		③															31.0		69.0
		④															40.2		59.8
		⑤															95.6		4.4
		⑥															60.1		39.9
		⑦															86.3		13.7
		⑧															80.6		19.4
	〔問2〕	(1)	敬語・文法													75.8		24.2	
		(2)														90.0		10.0	
	〔問3〕	(1)	古文・書写													24.2		75.8	
		(2)													22.3		77.7		
		(3)													41.7		58.3		
(4)														26.0		74.0			
二	〔問1〕	理解と表現									12.0	16.2	16.4	15.3	9.2	3.5	27.3		
	〔問2〕	理解												55.4			44.6		
	〔問3〕	理解									33.8	1.8	1.7	42.8	2.2	0.7	17.0		
	〔問4〕	語彙と理解												28.4			71.6		
	〔問5〕	理解											49.8				50.2		
	〔問6〕	理解										69.2					30.8		
三	〔問1〕	理解と表現									0.7	0.9	7.0	5.5	14.9	6.8	64.0		
	〔問2〕	語彙と理解												89.5			10.5		
	〔問3〕	理解											84.5				15.5		
	〔問4〕	理解											71.0				29.0		
	〔問5〕	語彙と理解												74.5			25.5		
	〔問6〕	理解と表現								3.0	3.9	10.0	6.8	11.3	9.6	7.4	3.5	44.6	
四		表現	8.5	9.0	7.0	5.7	5.9	7.2	7.6	6.6	4.4	5.2	5.5	4.4	1.5	2.6	1.5	17.3	

(注) 得点者の割合 (%) は、小数第2位以下を四捨五入したものであり、合計が100 (%) にならない場合がある。

一 般 選 抜

〔 社 会 〕

1 出題方針

- (1) 出題の範囲は、中学校学習指導要領に示されている各分野全般にわたるように配慮した。
- (2) 地理的分野では、世界地理について、ヨーロッパ州やアジア州を題材に、気候や農業、工業などの基本的な事項を理解しているかをみるようにした。また、日本地理について、北海道地方と中部地方を題材に、自然環境や産業などの基本的な事項を理解しているかをみるようにした。
- (3) 歴史的分野では、文化遺産についてまとめたものや近現代の略年表を題材に、政治や外交、経済、文化について基本的な事項を理解しているかをみるようにした。
- (4) 公民的分野では、現代社会にみられる諸課題や東京2020オリンピック競技大会の開会式について話し合う家族の会話を題材に、政治、経済、国際社会などについて基本的な事項を理解しているかをみるようにした。
- (5) 三分野とも、表や図等を題材とし、資料を読み取る力をみるようにした。また、社会的事象の意味や意義を理解し、その内容を適切に表現する力をみるようにした。

2 学力検査の結果について

- (1) 本年度の平均点は、46.9点（満点100点）であり、各分野の正答率は、地理的分野46.3%、歴史的分野47.9%、公民的分野46.7%であった。
- (2) 地理的分野では、昨年と比較して正答率が低下した。記述問題の正答率がやや高かったが、図表を読み取る問題や応用的な知識を問う問題での正答率が低かった。
- (3) 歴史的分野は、ほぼ昨年並みの正答率となった。基本的な事項については正答率が高かったが、できごとを時代順に並べる問題や記述で解答する問題の正答率が低かった。
- (4) 公民的分野では、昨年と比較して正答率が改善した。国際社会や経済の分野では正答率がやや低かったが、政治分野の正答率は高かった。
- (5) 社会科の指導にあたっては、社会的・歴史的事象について理解させるとともに、現代社会の課題や取組について興味・関心をもたせることや、歴史については大まかな時代の流れを理解させることが大切である。

3 各問題別結果

調査人数	542人
------	------

問 題		得点者の割合 (%)				
		3点	2点	1点	0点	
1	〔問1〕		54.8		45.2	
	〔問2〕		57.4		42.6	
	〔問3〕	世界の地理	65.1	3.9	0.2	30.8
	〔問4〕		44.3			55.7
	〔問5〕		43.7			56.3
	〔問6〕		36.2			63.8
2	〔問1〕			21.0		79.0
	〔問2〕		65.1			34.9
	〔問3〕	22.1			77.9	
	〔問4〕	41.3	10.3	4.2	44.1	
	〔問5〕	33.0			67.0	
	〔問6〕	58.5			41.5	
3	〔問1〕		43.0		57.0	
	〔問2〕		74.2		25.8	
	〔問3〕		68.6		31.4	
	〔問4〕	世界と日本の歴史	66.2	7.0	1.1	25.6
	〔問5〕		60.3			39.7
	〔問6〕		29.2			70.8
	〔問7〕			44.3		55.7
	〔問8〕		14.6	1.8	0.7	82.8
	〔問9〕			46.1		53.9
4	〔問1〕			41.5		58.5
	〔問2〕		45.4			54.6
	〔問3〕		32.5	15.1	7.2	45.2
	〔問4〕		49.4		50.6	
	〔問5〕		44.8		55.2	
5	〔問1〕		78.6		21.4	
	〔問2〕	43.9	5.4	0.9	49.8	
	〔問3〕	(1)	74.5		25.5	
		(2)		61.8		38.2
	〔問4〕	41.3			58.7	
	〔問5〕	49.6			50.4	
6	〔問1〕		16.6		83.4	
	〔問2〕		73.1		26.9	
	〔問3〕		10.0		90.0	
	〔問4〕	(1)	55.2		44.8	
		(2)	33.4	20.7	8.9	37.1
	〔問5〕		4.4		95.6	

(注) 得点者の割合 (%) は、小数第2位以下を四捨五入したものであり、合計が100 (%) にならない場合がある。

一 般 選 抜

〔 数 学 〕

1 出題方針

- (1) 出題の範囲は、中学校学習指導要領に示されている各領域、各学年の指導内容全般にわたるように配慮した。
- (2) 「数と式」の領域では、正の数と負の数の四則計算、文字式や無理数の計算、二次方程式等についての基礎的な理解力をみるとともに、与えられた条件から連立方程式を立式し、題意に即して正しく処理する能力をみるようにした。
- (3) 「図形」の領域では、図形の計量などについての基礎的な理解力をみるとともに、図形の性質の証明により、思考や推論の過程を論理的に表現する力をみるようにした。また、円周角の定理や三平方の定理、相似な図形の性質についての学習内容を活用する力をみるようにした。
- (4) 「関数」の領域では、一次関数や二次関数等についての基礎的な理解力をみるとともに、関数と図形の関係を総合的にとらえ、正しく処理する能力をみるようにした。
- (5) 「データの活用」の領域では、確率の求め方についての基礎的な力をみるようにした。また、与えられた資料からデータ分布の傾向を比較して読み取る力や、標本調査についての理解力をみるようにした。
- (6) 各領域とも基礎的・基本的な内容の習得ができてきているかについてみるとともに、問題解決への関心・意欲、数学的な見方や考え方及び事象を数理的に考察する力をみるようにした。

2 学力検査の結果について

- (1) 本年度の平均点は、45.4点（満点100点）であった。
- (2) 「数と式」の領域では、昨年度と同様に基本的な計算は概ねできているが、方程式を立式し、答えを求める問題の正答率が低かった。
- (3) 「図形」の領域では、直角三角形の性質、円の性質を活用する問題の正答率が低かった。
- (4) 「関数」の領域では、図形の領域と融合した問題の正答率が低かった。
- (5) 「データの活用」の領域では、資料を読み解く問題や定義を正しく理解しているかを問う問題の正答率が低かった。
- (6) 数学科の指導にあたっては、基礎・基本の知識・技能を習得させるとともに、種々の事象を数学的に表現・処理し、問題を解決する力を育成することが求められる。

3 各問題別結果

調査人数	542人
------	------

問 題				得点者の割合 (%)								
				7点	6点	5点	4点	3点	2点	1点	0点	
1	〔問1〕	(1)	正の数・負の数					98.5			1.5	
		(2)	正の数・負の数					79.3			20.7	
		(3)	文字の式					90.0			10.0	
		(4)	平方根					81.5			18.5	
		(5)	式の展開					68.5			31.5	
	〔問2〕	二次方程式						72.1			27.9	
	〔問3〕	平方根					45.9				54.1	
	〔問4〕	変化と対応					67.2				32.8	
	〔問5〕	平面図形					26.6				73.4	
	〔問6〕	空間図形					35.8				64.2	
2	〔問1〕	確率					46.3				53.7	
	〔問2〕	(1)	規則性					92.6			7.4	
		(2)	規則性				62.5				37.5	
	〔問3〕	連立方程式			22.0	2.8	2.6	4.8	14.8	10.0	43.2	
	〔問4〕	(1)	(Ⅰ)	データの活用						81.0		19.0
			(Ⅱ)	データの活用						39.9		60.1
			(Ⅲ)	データの活用						36.3		63.7
(2)		データの活用						26.0			74.0	
(3)	標本調査					35.2	5.2	18.5	2.0	39.1		
3	〔問1〕	関数						38.9			61.1	
	〔問2〕	(ア)	関数						58.3		41.7	
		(イ)	関数						45.9		54.1	
	〔問3〕	最も大きい座標	関数・平面図形						7.9		92.1	
		最も小さい座標	関数・平面図形						21.0		79.0	
	〔問4〕	関数・平面図形			3.1						96.9	
4	〔問1〕	(1)	平面図形					74.4			25.6	
		(2)	平面図形				33.9				66.1	
	〔問2〕	平面図形		5.7	1.7	2.4	3.3	6.1	6.8	5.5	68.5	
	〔問3〕	平面図形				3.1					96.9	

(注) 得点者の割合 (%) は、小数第2位以下を四捨五入したものであり、合計が100 (%) にならない場合がある。

一 般 選 抜

〔 理 科 〕

1 出題方針

- (1) 出題の範囲は、中学校学習指導要領に示されている各分野全般にわたるよう配慮した。
- (2) 自然の事物・現象を探究するために必要とされる基礎的・基本的事項についての知識・理解及び科学的な思考力、問題解決能力が身につけているかをみるようにした。
- (3) 観察・実験を重視し、結果を分析する能力、判断力及び表現力をみるようにした。
- (4) 第1分野では、光の進み方、気体の発生と性質について、基本的事項が理解できているかをみるようにした。また、化学変化と電池、力学的エネルギーの保存について、科学的な思考力と分析力、表現力をみるようにした。
- (5) 第2分野では、惑星と恒星、感覚器官や刺激と反応について、基本的事項が理解できているかをみるようにした。また、地震の伝わり方と地球内部の働き、生命を維持する働きについて、科学的な見方や考え方が身につけているかをみるようにした。

2 学力検査の結果について

- (1) 本年度の平均点は、53.0点（満点100点）であった。
- (2) 全般的には、日常で経験する現象についての基礎的・基本的な内容を問う問題の正答率は概ね高かったが、短文で説明する問題や文中で適切な語句をすべて答える問題の正答率がやや低かった。
- (3) 第1分野では、化学変化と電池に関する実験、力学的エネルギーについて調べる実験に関する計算や記述問題の正答率がやや低かった。第2分野では、生命を維持する働きに関する問題の正答率が高かったが、火山と地震に関する用語を問う問題は正答率が低いものもあった。
- (4) 理科の指導にあたっては、基本的な内容の理解を一層深めるとともに、科学的な視点で自然現象をとらえ、対話的に思考を深めていくような指導が望まれる。
観察・実験については、結果を分析し、客観的に考察して自らの考えを表現する力を育成することが大切である。また、理科の学習では内容をきちんと理解した上で、単位、数値をうまく使いながら計算式を組み立てる感覚を養うことが求められる。

3 各問題別結果

調査人数	542人
------	------

問 題				得点者の割合 (%)			
				3点	2点	1点	0点
1	〔問1〕	(1)	光の進み方、凸レンズの働き 感覚器官、刺激と反応		48.2		51.8
		(2)		70.3		29.7	
		(3)			55.9		44.1
		(4)		74.5		25.5	
	〔問2〕	(1)	太陽系と恒星 原子の成り立ち		48.3		51.7
		(2)		70.3		29.7	
		(3)			64.2		35.8
		(4)		56.3		43.7	
2	〔問1〕	(1)	自然界のつり合い 動物の体の相違点		52.2		47.8
		(2)		37.8		62.2	
		(3)			90.0		10.0
		(4)		52.6		47.4	
	〔問2〕	(1)	生命を維持する働き		48.7		51.3
		(2)			70.7		29.3
		(3)			79.0		21.0
		(4)		a		56.1	
		b		35.6		64.4	
3	〔問1〕	火山と地震		90.0		10.0	
	〔問2〕			75.1		24.9	
	〔問3〕		70.1		29.9		
	〔問4〕		36.0		64.0		
	〔問5〕			7.2		92.8	
	〔問6〕		75.6		24.4		
	〔問7〕		49.4		50.6		
	〔問8〕			12.9		87.1	
4	〔問1〕	気体の発生と性質 化学変化と電池		49.4		50.6	
	〔問2〕		75.1		24.9		
	〔問3〕			66.8		33.2	
	〔問4〕		36.2		63.8		
	〔問5〕			48.5		51.5	
	〔問6〕			73.4		26.6	
	〔問7〕		51.8		48.2		
	〔問8〕		19.7		80.3		
5	〔問1〕	運動とエネルギー		96.3		3.7	
	〔問2〕		21.8		78.2		
	〔問3〕			50.9		49.1	
	〔問4〕		8.3		91.7		
	〔問5〕		52.6		47.4		
	〔問6〕			69.7		30.3	
	〔問7〕		(1)		76.8		23.2
			(2)	9.4	4.2	1.3	85.1

(注) 得点者の割合 (%) は、小数第2位以下を四捨五入したものであり、合計が100 (%) にならない場合がある。

一 般 選 抜

〔 英 語 〕

1 出題方針

- (1) 出題の範囲は、中学校学習指導要領に示されている内容全般にわたるよう配慮した。
- (2) 英語で積極的にコミュニケーションを図ろうとする意欲や態度が身についているかをみるようにした。
- (3) 題材については、生徒にとって身近なものを使用し、取り組みやすい内容とした。学校の授業で販売実習を行ったこと、海外の生徒との交流を通して失敗から学ぶことができる大切なことがあると気付いたこと、文化イベントを通して自分にできることを考え努力し続けることの大切さを学んだこと等の内容を取り上げた。
- (4) 「音声」の領域では、身近な場面についての基礎的な対話文を聞いて理解する力をみるとともに、まとまりのある文章を聞いて、その要点を聞きとる力をみるようにした。
- (5) 「理解」の領域では、英文の内容について、その概要や要点を読み取る力、話の流れを筋道立てて理解していく力が身についているかをみるようにした。
- (6) 「表現」の領域では、与えられた身近なテーマについて、自分の考えを30語以上の英語で自由に表現させることにより、積極的にコミュニケーションを図ろうとする意欲や自己表現力が身についているかをみるようにした。

2 学力検査の結果について

- (1) 本年度の平均点は、46.6点（満点100点）であった。
- (2) 「音声」の領域では、7割以上の正答率が得られた問題が多く概ね良好であった。情報を適切に聞き取る問題では、正答率がやや低かった。
- (3) 「理解」の領域では、英文の概要や要点を読み取る力は概ね良好であるが、適切に文脈を読み取った上で短い英文で表現する力や、指示語が指す内容を正しく把握する力に課題が見られた。また、語句を正しい語順に並べ替える「語整序」は正答率が低く、文法的な知識にやや不十分さが見られた。
- (4) 「表現」の領域では、英語で積極的にコミュニケーションを図り、自分の考えを相手に伝えようとする態度はみられたが、指定された条件を正しく読み取り、与えられたテーマについて考えを的確にまとめ、英語で正しく表現する力は、受検者の間に大きな差が見られた。
- (5) 英語科の指導にあたっては、言語や文化に対する理解を深めるとともに、聞くこと、読むこと、話すこと、書くことの言語活動を通して、実際のコミュニケーションにおいて活用できる技能を身に付けさせることが求められ、日常の授業においても4技能をバランスよく育成する必要がある。

3 各問題別結果

調査人数	542人
------	------

問 題			得点者の割合 (%)												
			10点	9点	8点	7点	6点	5点	4点	3点	2点	1点	0点		
1	〔問1〕	No. 1	リスニング									77.5		22.5	
		No. 2										90.8		9.2	
		No. 3										74.7		25.3	
	〔問2〕	No. 1	リスニング									86.7		13.3	
		No. 2										75.5		24.5	
	〔問3〕	No. 1	リスニング									93.9		6.1	
		No. 2										61.1		38.9	
		No. 3										60.5		39.5	
		No. 4										32.7		67.3	
		No. 5										67.5		32.5	
2	〔問1〕		内容理解								50.7		49.3		
	〔問2〕		内容理解							51.3	0.7	20.7	14.0	13.3	
	〔問3〕		内容理解								37.1			62.9	
	〔問4〕	(1)	条件作文								13.7	8.7	5.9	3.3	68.5
		(2)	内容理解									66.8			33.2
3	〔問1〕		条件作文							21.4	4.4	2.0	4.1	68.1	
	〔問2〕	A	対話文完成								58.5			41.5	
		B	対話文完成								57.6			42.4	
	〔問3〕		内容理解							10.7	14.0	16.8	8.1	50.4	
	〔問4〕		内容理解								38.9			61.1	
4			自由作文	3.0	5.9	7.4	7.6	7.4	9.0	5.4	4.8	6.3	7.7	35.6	
5	〔問1〕	A	内容理解								43.0			57.0	
		B	内容理解								45.6			54.4	
	〔問2〕		内容理解							23.1	6.6	9.4	5.4	55.5	
	〔問3〕	㉞	語整序								19.2			80.8	
		㉟	語整序								28.2			71.8	
	〔問4〕	(1)	英問英答								21.0	9.6	1.8	67.5	
		(2)	英問英答								20.7	14.8	9.2	55.4	
	〔問5〕		内容理解								34.1			65.9	
〔問6〕		内容理解						6.6	5.4	13.7	9.2	12.9	5.0	47.2	

(注) 得点者の割合 (%) は、小数第2位以下を四捨五入したものであり、合計が100 (%) にならない場合がある。